

## 京大から新しい自由の波を (WAVE of FREEDOM)

### 抱負

“京大らしさ”を取り戻すために、原点に戻ります。京都大学は創立以来、自由を堅持し、多様性と対話を尊重してきました。この原点に戻りながら、構成員（教職員と学生）が一体となって、京大から世界に向けて新しい波(WAVE)を発信することを目指します。

京大の看板と言える「自由の学風」を学内の隅々まで行き届かせます。自己と他者の自由を尊重することを通して、考える自由、発言・行動する自由、学問の自由を堅持します。また、世界に開かれた大学として、性別、国籍、民族、宗教の違い、障がいの有無に関わらず、すべての構成員にとって多様性が尊重され、生活しやすい環境を実現します。その自由と多様性をよりよいものにしていくために、学内の構成員、学外の市民との対話や合意形成を何より重視していきます。

こうした“京大らしさ”は、学内にとどまらず、日本、世界に向けて発信していく価値のあるものです。いま世界はさまざまな分断と対立に苦しみ、自由と寛容さと調和が失われています。自由・多様性・対話を改めて尊重することは、世界に貢献できる進取の京大へ生まれ変わることであり、それこそが京大の基本理念にある「地球社会の調和ある共存」に貢献する道であると考えます。いま一度原点に立ち戻りながら、この総長選挙を機に、皆さんとともに新しい波(WAVE)を起こしたいと思えます。

### World-leading University 魅力的な世界の京大

「自由の学風」「研究大学」「探検大学」などと称される、世紀を超えて培ってきた京大の有形・無形の優れた資産を活用し、京都の地の利を生かし、世界に通用する人財を育成するとともに、世界中の有能な人財が憧れ集う大学としてさらに魅力を高めます。ユネスコ、世界気象機関(WMO)などの国連機関との二十数年にわたる国際経験を生かします。

### Active and innovative University 本質を追求し多元的な課題の解決に挑戦し続ける京大

学び問う「学問の府」として、「現場主義」「対話主義」に基づき複眼的視点から叡智を結集し、本質を追求し多元的な課題の解決に挑戦して、様々な分野でイノベーションを起こし、積極的な提言を発していく大学を目指します。

### Valued University 伝統と進取先端の京大

外部からの不当な圧力に屈しない大学自治の精神が京大の歴史です。「自治」の意味を、大学、部局、学生それぞれの立場で問い続け、よりよい環境を実現していきましょう。立場内及び立場間の対話と合意形成を重視し、良き慣習は維持発展し、悪しき慣習を改め、様々な価値を重んじて、京大による、京大のための「大学改革」を実現していきます。

### Environmental Excellence 優れた人財がのびのびと育つ京大

時間に追われる、資金獲得に汲々とする、煩雑かつ過重な事務作業に埋没する、という現状の改善を目指し、大学人として教職員も学生も、本来あるべき仕事の姿を取り戻せるように努めます。環境を整備し、「よく学び、よく働き、よく楽しむ」大学にしていきたいと思います。

Web 版もご覧ください (<http://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/takara/upcoming/>)。



## 新しいWAVEを駆動するFREEDOM施策

これまで多くの人が、長年に亘って、なぜ変えられないのだろうか？おかしいな？と思いながらも取り上げられてこなかった事柄に目を向けて、立場を越えて虚心坦懐に対話を続け改善していきます。6年間の任期を2年ずつの3段階（3つの大きな波）としてダイナミックに動かします。**FREEDOM**を標榜する下記のような30ほどの施策を掲げ、既存の枠組み・慣習に捉われない新たなチャレンジをおこなって、順次着実にかつ大胆に進めます。

下記各項目に付した番号の意味は以下のようです。

- 【1】第1の波（最初の2年 2020-2022）に完了する、あるいは、すぐに着手すること
- 【2】最初の2年で構想を温め、一部最初から着手し、第2の波（中間の2年 2022-2024）に力を入れること
- 【3】前半の3年くらいまでの間に構想を温め、第3の波（最後の2年 2024-2026）で仕上げること

## F (Finance) 財政

- ・よりよい職場環境を実現するため、百億円規模の「京大債」の発行による弾力的な財政基盤の確立を図ります。超低金利の継続が今後も予想される中で、高格付け（京大はAA+）を有効に利用して、金利負担を最小限に留められ（100億円の10年債で、年金利負担は1,300万円程度と試算）、京大債を発行する絶好の時期にあります。京大を支援してくださる皆様、投資家や企業の皆様にご協力をお願いしたいと考えます。長期的な資金計画を策定・運用するための長期財政委員会（仮称）を設けます。【1】
- ・創立125周年事業計画目標額（100億円）の基金集めに一層努力します。上記の京大債と合わせ、それぞれの財源の特徴をうまく生かして、これまで資金獲得が困難なために実現できなかった重要事項を推進します。そのため、関係委員会とも相談しながら、必要に応じて、事業計画内容を弾力的に見直します。【1】

## R (Research) 研究

- ・研究倫理の制度を確立せねばなりません。生命科学の分野ではできていますが、現代や未来において一層重要となる「人の研究」に対してはまだできていません。この確立を図り、人間の尊厳と権利と安全を守り、適正・公正な研究教育をおこなう環境を整えます。危機管理を考えるにおいても文理融合のアプローチは極めて重要です。【1】
- ・海外の大学だけでなく多くの国連機関・国際機関とも協定を結んできた実績を活かし、海外フィールド研究の拠点、オンサイトラボ、海外拠点オフィスの機能をさらに活用して、京大を核とした戦略的国際ネットワークを打ち立て国際的リーダーシップを確保していきます。併せて、国際化を推進する学内組織や委員会の在り方を見直し、各部局の国際交流活動を促進する一元的な組織づくりを遂行します。【1】
- ・各分野における最先端研究はもとより、基礎、応用の区別にとらわれず、京大にしかない自由な発想に基づくユニークな研究を大切にします。すぐ社会の役に立つような（例えばiPSのような）先端的かつ実用的な研究、より息の長い学術基盤を作り出すような基礎学術研究や学際的研究を育成し、それらの意義を正當に評価する環境づくりなど、広い視野に立ってあらゆる研究をサポートしてまいります。【1】
- ・総合大学である京大だからこそできる文理融合のチャレンジを加速します（例えば、AIと哲学）。指定国立大学法人としての京大に求められている人文学の牽引者としての情報発信力を強化します。【1】
- ・「探検大学」と言われてきたように現場主義のフィールド研究をさらに維持発展させていきます。未経験、未踏の分野や場所に果敢にチャレンジする共同研究を奨励・推進いたします。【2】
- ・京大を特徴付ける国内外のフィールド・拠点施設・オンサイトラボ、隔地研究教育施設、大型研究施設、病院、図書館、博物館、文化施設、体育施設などのさらなる魅力づけに取り組みます。それらが、海外のトップレベルの大学等にも引けを取らないものとなるよう努めます。【2】

## **E (Education) 教育**

- ・学生の短・長期の海外渡航・留学をさらに促進するために、これまでに実績のあるリーディング大学院などでの経験や実績を活用し、臨地教育研究を推進する仕組みを考えます。種々の学際的・国際的な教育プログラムの立て直しや発展を図ります。そのための財政措置をいたします。海外拠点を活用して異分野の学生をグループで「京大学生使節団」として海外派遣することを試みます。【1】
- ・オンライン講義が本格的に普及します。キャンパス間あるいはキャンパス外、国外からでも出席・参加できるこの新しい方法を京大らしく作り上げたいものです。【1】
- ・課外活動を多様な学びの場としてとらえ、文化活動や体育活動を含めて大学キャンパスという空間の多面的な特性を大切にします。そのため、施設の補強に取り組みます。例えば、体育館、プール、グラウンドなどを現代的にして、使いやすく、学生や教職員の能力開発に直接・間接に役立てると同時に、一定の利用資格と利用料金を定めた上で地域社会の皆様にも活用していただけるようにします。【1】
- ・「研究大学」として専門を深める、深めたからこそ見える世界がある、深めるために幅広い教養が必要であり、深めた後にもさらに広がる世界があります。それぞれの段階で多様な学びをできる京大の伝統を発展させていきます。【2】
- ・学部教育を今一度見直しましょう。多感な成長期の学生が、人生 100 年時代の自分の進路と人生を見つめ、生涯の糧となる知・徳・体の訓練をし、自己を将来にわたって伸ばし広げていけるような学びの場として大学が機能したいものです。【3】

## **E (Emergency) 危機管理**

- ・新型コロナウイルス（COVID-19）の収束とその後に向けた対策を強化します。収束後の新しい世界において、如何に取り組むか、それぞれの立場を超えて学内で広く議論し、戦略的に対応できるよう迅速に取り組めます。【1】
- ・京大が直面しうる花折断層の直下型地震や南海トラフ地震などへの対策について、建築面のみならず危機管理体制・対策も含め、防災研究所に 24 年勤務した経験・知見を生かして取り組みます。臨海部の京大施設には津波への対策もとります。【2】

## **D (Diversity) 多様性**

- ・女性がさらに活躍できる環境を整えます。重要な役割への登用。女性の立場からの職場環境、ジェンダーバランスと機会均等の改善を実現します。そのためには女性の声を常にお寄せください。【1】
- ・障がいを持つ学生や教職員、子育てや介護に邁進中の教職員にとって仕事をしやすい環境を整えます（バリアフリーの早期実現）。学内保育施設を実現します。【2】
- ・外国人教職員や留学生がさらに活躍するための、働き学ぶ環境を改善し、安定した生活基盤の上に、国際化に向けた良い刺激を与えてくれることを期待・奨励します。【2】
- ・若手研究者は将来の京大の研究・教育を担う貴重な人財です。しかし、現在では任期付で将来設計もままならないのが現実です。このため、テニユアアトラックの積極的な採用など、長く安心して働ける職場環境を実現します。【2】

## **O (Opportunities) 機会**

- ・理事・副学長（プロボストも含む。）の公募制（学外者も公募）を提案します。法務・コンプライアンスもより一層重視します。情熱のある優れた人財を二年ごとに募ります（もちろん再任もあり得ます）。大学運営が硬直化するリスクを回避するために常に新鮮な風を取り入れるように配慮します。6年間で、2年ごとに第1、第2、第3の波を考えていきます。【1】

- ・大学の管理運営の実務を直接担っているのは、主に職員です。こうしたプロフェッショナルとしての職員を大学運営の戦略的なスタッフとして、またトップマネジメントを直接支える専門職能集団として活躍して頂けるようにします。その一例として、教職協働組織を本部に設置し、その相乗効果を評価し敷衍します。【1】
- ・次世代を支える若い世代の教職員や学生諸君との対話集会を定期的に行います。これを羅針盤の一つとして、京大のより良い在り方、進路を探って参ります。学内のみならず学外の皆様への説明責任を果たすため、2ヶ月に1度くらいのペースで、定例の記者会見を開くなどして、質問や要望を承りたいと存じます。【1】
- ・京大の特長施設が、学生や人々の学びの場、同窓生の交流の場、地域貢献の場、開かれた共同研究・教育や交流の広場として発展・活用できるよう努めます。【3】

## ***M (Motivation)* 意欲**

- ・支援職員（技術職員やURA）、非常勤職員や若手研究者の皆さんが、研究・教育・医療のパートナーや次世代人財として活躍し、また、将来に意欲と希望を持てるような組織づくりと雇用制度の在り方を見直します。【1】
- ・京都の地の利を最大限に活かして、地域とともに育ち、地域に貢献してまいります。教職員や学生が、地域社会やコミュニティーの中の活動に参加し、現場の実態を知り学び、アカデミアが参加してこそ解決できる問題に取り組むこと、地域貢献、地域と京大との連携を奨励します。【2】
- ・公認の課外活動団体への支援を充実させ、文化系・体育系どちらにおいても、課外活動の顧問（部長）がボランティアとして活動している現状を改善し、学生諸君と教職員が生き生きと活動できる環境を実現します。体育会の法人化のような新しい方法も検討します。【2】
- ・「地球社会の調和ある共存」というミッションを引き続き堅持します。各国・各民族の文化を理解し、互いの間の憎しみと誤解を去り、戦争を回避し、平和を希求し、共存社会に貢献するような世界人を育成していきます。【3】

---

(以下、自己紹介)

私は、学内では、

- ・ 部局長：防災研究所長 2 年（2015～16 年度）、総合生存学館（思修館）長 4 年目（2017 年度～現在）
- ・ 理事補：施設担当 4 年（2010 年 10 月～2014 年 9 月）
- ・ 副理事：宇治・遠隔地キャンパス担当半年（2016 年 10 月～2017 年 3 月）
- ・ グローバル COE（GCOE-ARS）拠点リーダー 5 年：極端気象適応社会ユニット長 2 年（2010～2011 年度）
- ・ リーディング大学院（GSS）プログラムラムコーディネーター 7 年：グローバル生存学ユニット長 3 年（2012～2014 年度）
- ・ ユネスコチェア WENDI ユニット長 3 年目（2018 年度～現在）

などの役目を務めてまいりました。さらには、

- ・ 今般の非常事態や自然災害に対する危機管理（防災研究所 24 年勤務の経験）
- ・ 学際的な研究教育の推進（GCOE-ARS、GSS、思修館）
- ・ 国際的な研究プロジェクト（SATREPS の研究主幹、JASTIP の防災分野リーダー）などへの参画
- ・ ユネスコ、WMO、FAO、UNDRR、国連大、ICL など国際機関との連携
- ・ ユネスコには特に強い関係あり（ユネスコ国内委員会委員、京大ユネスコチェア WENDI 設立など。国際水文学計画 IHP 政府間理事会に日本政府代表団の一員として 1996 年から連続 11 回出席、うち 4 回は団長。IHP 東南アジア太平洋地域運営委員会事務局長（1999-2012）及び議長（2015-2017）。）
- ・ 博士（工学）48 人（日本人 13 人、外国人 13 か国から 35 人）を主査として輩出
- ・ 産学共同講座 2 件（凸版印刷、JX 金属）を総合生存学館内に発足
- ・ 体育会系（硬式野球部部員であった。部長 14 年、監督 2 回計 4 年）
- ・ もちろん、京大出身者（工学部土木工学科昭和 54 年卒、修士修了昭和 56 年）であることなどの経験が豊富な点に強みがある、と考えます。



宝 馨 TAKARA Kaoru

京都大学大学院総合生存学館（思修館）学館長・教授

〒606-8306 京都市左京区吉田中阿達町 1 東一条館

TEL: 075-762-2013 (学館長室)

E-mail: takara.kaoru.7v@kyoto-u.ac.jp

所属部局ホームページ <https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/takara/index.html>

同（英文版） [https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/takara/en\\_index.html](https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/takara/en_index.html)

教育研究活動データベース <http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/iD2dP>

ウィキペディア <http://ja.wikipedia.org/wiki/寶馨>